

わが造林班の安全活動について

小坂営林署 成瀬 謹 市

1 はじめに

わが班の職場、鹿山担当区では、春の植付作業にはじまり、炎天下での下刈作業、冬期の枝打除伐作業に至るまで、林道事業の土木手、製品事業の生産手、また、他の担当区の造林手、あるいは日雇作業員まで、幅広い人員構成で、お互に事業量達成のために、造林事業にとりくんでいます。

造林事業は、平面の作業であり、一日中、歩いて動かなければ、仕事が出来ません。従って行動範囲も大きくなり、移り変わる環境に対し、機敏な動作が必要となる。わたしたちの地域では、雨降りのほかに、露避け、防寒のために、雨カッパを着用することが多く、その為に動きが鈍くなり、現場に合った行動が、より必要となってきます。

人命尊重が叫ばれて久しく、災害をなくするには、特效薬がないなどと言えない今日、“行動災害は、当然働くものの責任で、防がなければなりません。”

安全管理と生産管理は、不分離であることから、無事故は、必然に事業完遂で現われます。わが班では、わたしたちの使命である、「0災害事業所」「事業量完遂事業所」に、なることを誓い、「自分のからだは、自分で守る」を、基本理念として、安全作業に取り組みました。結果として、50年から今日まで、無事故で事業量を、完遂することができましたので、報告します。

2 過去の安全活動の反省

(1) 安全懇談会について

- ア 主任指導型の、指示伝達方式であった。
- イ 発言者は、作業班長等、一部の者に片寄っていた。
- ウ 全員が参画意識に、欠けている面がみられた。
- エ 安全ルールの決定が、全員に理解されなかった。

(2) 日常の活動について

- ア 上意下達（主任の注意指導）で、受け身で終わっていた。
- イ TBMは、作業班長の、一方的注意で終わっていた。

(3) 安全推進員の活動について

積極的な活動が、みられなかった。

(4) 安全当番の活動について

当番日誌の記入だけで、終わっていた。

3 現在の安全活動

わが班では、わが班の災害発生件数（別表2）で、瞭然のように、惰性的な安全活動によって、S49年には、4件の災害をみるに至り、累計の36%と、非常に高い率を残し、誠に不名誉な結果になってしまいました。また、鹿山筋（製品、林道事業等を含む）では、55%となり、災害要注意地帯などと言う、陰の声も聞かれるようになりました。

わたしたちは 前段の、過去の安全活動の反省をふまえ、S50年より、安全活動（別表1）について、全員が協力のもと、積極的に取組んできました。

(1) 安全懇談会について

月1回程度、降雨日などを活用し、実施することとし、作業種の変る場合は、完全に実施している。

司会者は、順番制として、全員で受け持ち、自主的に1人一発言以上を原則で、全員参画方式とし、人数が多い場合は、分科会で、別々のテーマをもって討論を行い、その後で、合同懇談会を実施している。討論の結果は、司会者が主任に伝達し、主任からの総括発言を受けている。

以上、自主的全員参画方式により、ユーモアのある明るい会話ができ、相互の理解、意志疎通ができた。また、積極的な安全提案もできるようになり、安全ルールの決定、実行、反省が確立されたことにより、全員が納得いく懇談会となった。

(2) 毎一言運動について

口では、作業開始前に行う「TBM」により、相互安全打合せを行う。

耳では、主任あるいは、安全推進員の注意指導を受ける。また、毎朝テープレコーダーにより、安全体操を行った後に流れる作業基準等、一言注意を聞いている。

目では、作業現地に掲げる、緑十字の安全旗、安全標語板（別表2）の確認をしている。

毎日、口、耳、目により、自然的に安全ルールの確認ができ、ユトリのある作業ができた。

(3) 使用器具の危険排除について

鎌の刃先による切傷事故、鎌の位置がわからないために、手が刃先に振れて切った事故等を反省し、鉋、鎌の刃先を減摩して使用、また、色彩管理として、器具の柄に、夏は、カラースプレー、冬は、ビニールテープによって危険表示をして、鉋、鎌を使用している。

効果としては、刃先による切傷事故の解消、冬期作業の、雪による器具のスベリ止め防止にもなり、器具の位置確認が容易になった。（別表2参照）

(4) 安全当番の役割について

TBMの一言運動、また、作業終了時の反省会の主導者となり、安全に対しての番人となるよう実施している。しかし、まだまだ個人差があり、全員が納得できる内容になってなく、今後の課題として、全員が協力し、実施できるようにしたいと思っています。

以上、わが班の安全活動について報告しましたが、安全は、指導者があらゆる分野、機会、方法を

もって叫んでみても、実際に、現場で働く我々に、取組む姿勢がなければ、そのことは、かえって危険要素になり、流れを変えるだろう。だから、職場には、常に相互信頼の維持が大切となり、全員が一体となって、安全衛生の理解と、認識を高める中から、最終的には個々の努力によって、終着駅のない安全活動について、着実に前進しなければならないと思っています。

わが班での限らない安全活動を、一步一步前進させることを約束し、皆様方の御指導と御批判を、お願いしまして報告を終わります。

別表1 現在の安全活動

項目		内容	成果
安全懇談会	方法	i 月1回、降雨日を利用 ii 作業種変更の場合は、完全実施	i ユーモアのある明るい会話ができた。 ii 相互理解、意志疎通ができた。
	内容	i 自主的全員参画方式 一人一発言以上を原則 ii 司会者は、順番制で全員が実施 iii 多人数の場合は、分科会で懇談後、全体会議を実施 iv 主任はオブザーバー、最後に総括発言	iii 安全提案もできるようになった。 iv 安全ルール決定、実行、反省が確立した。 ◎ 全員が納得いく懇談会となった。
毎日一言運動	口	i TBMにより安全確認の打合せ	i 押しつけでなく、自然に安全ルールの確認ができた。
	耳	i 主任、安全推進員の注意指導を受ける。 ii テープレコーダによる一言注意をきく。	ii 安全推進員の積極的な発言がみられるようになった。 ◎ ユトリある作業ができた。
	目	i 緑十字(小旗)の確認をする。 ii 安全標語板の確認をする。	
使用器具の危険排除	改良	i 鉋、鎌の刃先の減摩	i 刃先による切傷事故がなくなった。
	管理	i 色彩(赤色)表示 夏:カラースプレー 冬:ビニールテープ	ii 冬期、雪による器具のスベリ止め防止に効果があった。 iii 器具の位置の確認が容易になった。
安の全役 担当番割	内容	i TBMでの一言運動の実践 ii 作業終了時の反省会の実践 iii 救急薬品の点検、休憩小屋の清掃等の実施	i 安全に対して番人となるよう心掛けている。

別表2

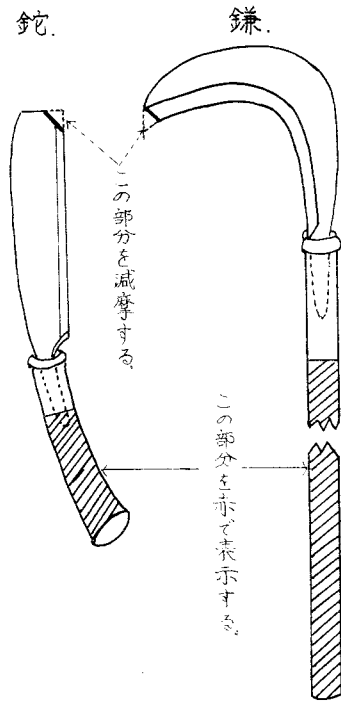
1. わが班の災害発生件数

10か年間

内訳 \ 年度	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
署	4	10	5	8	13	17	11	10	9	(1)
鹿山筋	0	4	2	3	6	4	6	2	2	(0)
造林班	0	0	1	1	2	1	4	0	0	(0)
率 %	0	0	20	13	15	6	36	0	0	(0)

鹿山筋とは、製品及び林道事業等を含む。

2. 使用器具の危険排除



3. 安全標語板

